

令和元年6月18日現在

機関番号：24505

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K20811

研究課題名(和文) フィリピンにおける自宅分娩者支援のための巡回型産褥期訪問システムの有用性の検証

研究課題名(英文) Utilization of healthcare services in postpartum women in the Philippines who delivered at home and the effects on their health

研究代表者

山下 正 (Yamashita, Tadashi)

神戸市看護大学・看護学部・助教

研究者番号：90613092

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究結果より、フィリピンで自宅で出産する女性が医療サービスを利用する上で、女性を取り巻く経済的および環境的障害がその利用を妨げていることが考えられた。また、自宅で出産する女性は保健医療サービスの利用率が低いことと、産後の身体の異常症状が施設で出産する女性に比してより頻繁に発生していた。一方、フィリピンの地域ヘルスポランティアは、訪問訪問サービスを通じて産後の女性の身体的および精神的状態を評価する上で潜在的に重要な役割を果たしていることが明らかになった。フィリピンの地域ヘルスポランティアの活用がフィリピンの産後ケアの地域ケアシステム向上の上で非常に重要であると考えられる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究から、フィリピンの自宅出産者の産後の健康状況と保健サービスの利用状況を把握することができた。また、フィリピンの地域ヘルスポランティアであるBHWは産後の家庭を訪問し、女性の健康を把握し、予防的に関わっている状況を明らかにすることができた。今回の結果から、BHWが健康的な女性だけではなく、自宅出産者に焦点をあてて訪問するようなハイリスクアプローチに特化した活動が重要になることが考えられた。そのハイリスクアプローチ活動を現在の産褥期訪問システムに含めていくことが、フィリピンの地域産後ケアシステムの改善につながると考えられる。

研究成果の概要(英文)：We found that financial and environmental barriers might hinder the utilization of healthcare services in women who deliver at home in the Philippines. A lower utilization of healthcare services in these women might result in higher abnormal postpartum symptoms. These symptoms may contribute to the MMR in the Philippines. In the Philippines, the provision of health education on abnormal symptoms can enhance knowledge and attitudes in postpartum women, which can ultimately enrich their health. And, our results also indicated that BHWs play a potentially important role in evaluating postpartum women's physical and mental conditions through home-visiting services. However, several difficulties adversely affected their activities, and these must be addressed to maximize the contributions of BHWs to the postpartum healthcare system.

研究分野：公衆衛生学、疫学、地域看護学、公衆衛生看護学

キーワード：フィリピン 産後 自宅出産 地域ヘルスポランティア 保健サービス 保健システム

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

## 1. 研究開始当初の背景

フィリピンは東南アジアの中でも母体死亡率の改善がみられない国の一つである。2000年に国連ミレニアム・サミットで採択されたMDG, Target-5.A.（2015年までに妊産婦の死亡率を1990年の4分の1に削減）の達成が極めて難しい状況にある（WHO, 2014）。フィリピンは、年間出生数が2,245,000人、合計特殊出生率が3.1（2009年）、母体死亡率が120（対10万人）（2013年）と今後も出生数の増加が見込まれるが、母体死亡への対策が世界的にも緊急の課題である（WHO, UNICEF, 2014）。フィリピンの母体死亡の主な原因をみていくと、分娩から産褥期に起こる合併症が41.0%、妊娠高血圧症が32.1%、産褥期出血が17.9%、中絶が9.0%、敗血症が8.0%である（Ronsmans C et al, 2006）。これらの特徴として、産褥期の死亡が多いこと、出血や感染症などの予防可能な原因が多いことが考えられる。そこで、当申請者はフィリピンの褥婦の産後の保健サービスの利用状況についての調査を行った。その結果、施設分娩者に比べて自宅分娩者は産後の保健サービスの利用が不十分であることであることを明らかにした（Yamashita et al, 2014）。このことは、自宅分娩者の産褥期保健サービス面における支援の重要性を示した。

自宅分娩率が33%のインドネシアでは、女性が自宅分娩を選ぶ理由として、医療機関への物理的距離、経済力、女性の社会的地位であると報告された（Titaley CR et al, 2010）。一方、フィリピンの自宅分娩率は55.5%と高く、また専門職が付き添わない分娩の割合についても38.0%（2005-2009年）と東南アジアの中でもその割合は極めて高い。フィリピンでは自宅分娩の介助者の多くは伝統的産婆（ヒロット）が現在も多く、分娩介助に関する免許をもたないヒロットによる出血死、（非）合法的な中絶手術、不十分な産後管理指導などから母親の健康障害につながっている例も多い（Sibley L et al, 2004）。ヒロットと住民の関係は、伝統的文化・習慣と深く関連している。そのため、自宅分娩者の産褥期の重篤な健康悪化につながる要因を検討する上で、保健サービスだけではなく、生活・環境、伝統的文化・習慣などより生活に密接した多面的な検証を行う必要がある。

フィリピンの保健システムを整備する上で、専門職のマンパワー不足という大きな問題点がある。フィリピンでは医師12.0（対1万人）、看護師42.5（99-02年）と東南アジアの中でも最も少なく、さらに専門職の国外への流出が非常に多い深刻な社会問題をもつ（Asia Pacific Observatory on Health Systems and Policies, 2011）。この課題に対して我々はパラングイ・ヘルス・ワーカー（以下、BHW）と呼ばれる保健センターに登録しているボランティアの存在に注目し、彼らの活動実態調査を行った。調査結果から、BHWは家庭訪問を通じて、自宅で生活する褥婦の心身の健康の問診を行ったり、予防の目的で健康に関する情報提供をしたり、必要に応じて受診勧奨しているなど地域で生活する褥婦に対して予防活動を行い、地域全体の健康の維持・増進に寄与していた。しかし、BHWは産後ケアにおける知識や技術を学ぶ機会が非常に少ないことや担当患者が非常に多いことなど彼らの活動を妨げる要因が複数存在することが明らかになった（Yamashita et al, 2015）。

## 2. 研究の目的

自宅分娩は途上国の母体死亡を生み出す要因の一つである。このことを褥婦の健康や産後保健サービスの観点から検証した研究はこれまでにない。東南アジアの中で非常に高い母体死亡率と自宅分娩率をもつ国がフィリピンである。すでに当申請者はフィリピンにおける自宅分娩者の産後保健サービスの利用状況が不十分である現状を明らかにした。しかし、自宅分娩者の重篤な健康悪化につながる要因は明らかになっておらず、保健・医療サービスや生活・環境・文化を考慮したより多面的な検証が必要である。また、ヘルスボランティア（BHW）を活用した自宅分娩者の産褥期にアプローチする仕組みを試みる。本研究ではフィリピンムンティンルパ市と共同して、自宅分娩者の健康阻害要因の把握とBHWを活用した産褥期訪問システムの有用性の検証を行う。

## 3. 研究の方法

1) ムンティンルパ市在住の褥婦を対象者として、自宅分娩者の健康に影響を与える要因を保健・医療サービスや生活・環境・文化面から多面的に明らかにする。

### (1) 研究時期

2015年3月から2016年2月

### (2) 研究デザイン

自記式質問紙を用いた横断研究

### (3) 対象者

ムンティンルパ市在住の褥婦 63名

ムンティンルパ市在住、産後4週から8週（選定時点）という条件でムンティンルパ市保健センターに登録されている出生登録票から単純無作為抽出を行った

### (4) 方法

自宅または施設で出産した63名の産後の女性がこの研究に登録された。特性、医療サービスの利用、および産後期間中の異常な症状に関する質問を含む質問票を配付した。アンケートデータを分析するために、サンプルを自宅での出産と施設での出

産に分けて分析を行った。分析では、カイ二乗検定、Fisher の正確検定、および Mann-Whitney U 検定を使用した。

2) ムンティンルバ市で活動を行う地域ヘルスボランティアの産後ケアの役割の検証を行った。

(1) 研究時期

2017年1月

(2) 研究デザイン

質的内容分析

(3) 対象者

ムンティンルバ市で活動する地域ヘルスボランティア

(4) 方法

13人の参加者のフォーカスグループインタビューをムンティンルバ市で質的研究方法を用いて実施した。インタビューガイドに従って結果を分析した。フォーカスグループインタビューの議事録を逐語録に起こし、研究者は逐語録を読んでコード化した。その後、コードを使用してカテゴリを構築した。

#### 4. 研究成果

1) 自宅分娩者の健康に影響を与える要因の分析

出産の種類、居住地域、毎月の収入、母子保健書の使用状況には、自宅出産した女性と施設で出産した女性との間で有意差があった ( $P < 0.01$ )。妊娠中の出生前診断の利用には有意差があり ( $P < 0.01$ )、分娩後の医療サービスの利用には有意差はなかった。出産した女性は、刺激された目や頭痛、そして継続的な腹痛を経験する傾向があった ( $P < 0.05$ )。

経済的および環境的障害は、フィリピンで自宅出産する女性による医療サービスの利用を妨げる可能性があった。家庭で出産する女性は医療サービスの利用率が低いことと、産後の身体の異常症状がより頻繁に発生する可能性がみられた。

2) ムンティンルバ市で活動を行う地域ヘルスボランティアの産後ケアの役割の検証

11の分析コードの中で4つの重要な活動が強調された。これらの活動は、「産後の女性の状態の評価」、「医療施設を訪れるための勧告」、「血圧とビタミン摂取量の測定」、および「産後の健康情報の提供」でした。また、BHWが活動する上で障害となっていることとして、「産後ケアに関する最新情報を得ることができない」、「BHWから保健サービスを受けたくない女性が存在する」、および「割り当てられた産後女性への支援に関する業務が多過ぎる」ということであった。また、BHW活動を継続している理由として「地域における産後の女性とその家族を助けるためのホスピタリティ」および「BHWとしてサービスを提供することに使命感をもっている」であった。

この研究は、産後医療サービスにおけるBHW活動を評価する最初のものであった。BHWは、訪問訪問サービスを通じて産後の女性の身体的および精神的状態を評価する上で潜在的に重要な役割を果たすことを、今回の結果は示した。

3) 今回の結果のまとめ

本研究から、フィリピンの自宅出産者の産後の健康状況と保健サービスの利用状況を把握することができた。また、フィリピンの地域ヘルスボランティアであるBHWは産後の家庭を訪問し、女性の健康を把握し、予防的に関わっている状況を明らかにすることができた。今回の結果から、BHWが健康的な女性だけではなく、自宅出産者に焦点をあてて訪問するようなハイリスクアプローチに特化した活動が重要になることが考えられた。そのハイリスクアプローチ活動を現在の産褥期訪問システムに含めていくことが、フィリピンの地域産後ケアシステムの改善につながると考えられる。近年、自宅出産の在り方が変化する状況がみられる。自宅出産自体をハイリスクな出産ととらえ、自宅出産を中止しようとする世界的な動きである。そのため、フィリピンの地域保健システムの中での自宅出産の位置づけや自宅出産へのサポート体制、自宅出産と行政の連携など、フィリピンでの自宅出産の在り方についての議論をきちんと進めていく必要がある。自宅出産の背景には貧困をはじめとする様々な社会背景が複雑に関係する。そのため、健康面だけではなく文化的側面などを含めて多面的に女性とその家族を支援するための仕組みを、行政だけではなく病院や教育機関、地域団体などと共に考えていく必要がある。

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計4件)

Tanaka, Y., Cecilia, L., Maria, TR., Yamashita, T., Matsuo, H. Knowledge, Behavior and Attitudes Concerning STI Prevention among Out-of-School Youth in the Philippines. *Universal Journal of Public Health*, 5(3):127-134 (2017).

Yamashita T, Sherri Ann Suplido, Cecilia Llave, Maria Teresa R. Tuliao, Yuko Tanaka, Hiroya Matsuo. Understanding postpartum healthcare services and exploring the challenges and motivations of maternal health service providers in the Philippines: a qualitative study. Vol.43 - No.2, 123-130(2015).

Yamashita, T., Maria, TR., Sherri, AS., Concel, MM., Cecilia, L., Tanaka, Y., Matsuo, H. Utilization of healthcare services in postpartum women in the Philippines who delivered at home and the effects on their health: a cross-sectional analytical study. International Journal of Women's Health, 9:695-700 (2017).

Tanaka C, Teresa M, Tuliao R, Tanaka E, Yamashita T, Matsuo H. A qualitative study on the stigma experienced by people with mental health problems and epilepsy in the Philippines. BMC Psychiatry; 1-13(2018).

〔学会発表〕(計4件)

山下正:フィリピンにおける自宅分娩者の産後の健康に影響を与える要因,第75回日本公衆衛生学会,2016.10.大阪.

山下正,田中千佳,松尾博哉:フィリピン都市部における自宅出産者の産褥期支援方法の検討 コミュニティヘルスボランティアの養成を通して,日本国際保健医療学会第35回西日本地方会,2017.3.神戸.

山下正:シンポジウム 在住外国人が安心して出産できるように ~その支援のあり方を考える~ 「在住外国人の産後保健サービス利用向上に資する方略」,第58回日本母性衛生学会総会・学術集会,2017.9.神戸.

山下正,Maria, TR.,田中千佳,田中祐子,松尾博哉:フィリピンにおける地域ヘルスボランティアの褥婦支援能力向上に資する学習方法の検討~ワークシートの記述内容の分析を通して~,神戸看護学会第2回学術集会,2017.10.神戸.

〔図書〕(計1件)

山下正:大橋一友,岩澤和子編:国際化と看護,pp.124-128,メディカ出版,大阪(2018).

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年:  
国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等  
特になし。

## 6. 研究組織

(1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2)研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。